

【表紙】

【公表書類】	発行者情報
【公表日】	2026年 8 月28日
【発行者の名称】	株式会社勝美ジャパン (Katsu Mi Japan Inc.)
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山崎 裕康
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目38番 9 号
【電話番号】	03-6810-8561
【事務連絡者氏名】	取締役財務部部長 大崎 英治
【担当J-Adviserの名称】	株式会社日本M&Aセンター
【担当J-Adviserの代表者の役職氏名】	代表取締役社長 竹内 直樹
【担当J-Adviserの本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目 8 番 2 号
【担当J-Adviserの財務状況が公表される ウェブサイトのアドレス】	https://www.nihon-ma.co.jp/ir/
【電話番号】	03-5220-5454
【取引所金融商品市場等に関する事項】	東京証券取引所 TOKYO PRO Market なお、振替機関の名称及び住所は下記のとおりです。 名称：株式会社証券保管振替機構 住所：東京都中央区日本橋兜町 7 番 1 号
【公表されるホームページのアドレス】	株式会社勝美ジャパン https://www.katsumijapan.com/ 株式会社 東京証券取引所 https://www.jpx.co.jp/

【投資者に対する注意事項】

- 1 TOKYO PRO Marketは、特定投資家等を対象とした市場であり、その上場会社は、高い投資リスクを含んでいる場合があります。投資者は、TOKYO PRO Marketの上場会社に適用される上場適格性要件及び適時開示基準並びに市場価格の変動に関するリスクに留意し、自らの責任で投資を行う必要があります。また、投資者は、発行者情報により公表された情報を慎重に検討した上で投資判断を行う必要があります。特に、第一部 第3 4【事業等のリスク】において公表された情報を慎重に検討する必要があります。
- 2 発行者情報を公表した発行者のその公表の時点における役員(金融商品取引法(以下「法」という。)第21条第1項第1号に規定する役員(取締役、会計参与、監査役若しくは執行役又はこれらに準ずる者)をいう。)は、発行者情報のうちに重要な事項について虚偽の情報があり、又は公表すべき重要な事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けていたときは、法第27条の34において準用する法第22条の規定に基づき、当該有価証券を取得した者に対し、情報が虚偽であり又は欠けていることにより生じた損害を賠償する責任を負います。ただし、当該有価証券を取得した者がその取得の申込みの際に、情報が虚偽であり、又は欠けていることを知っていたときは、この限りではありません。また、当該役員は、情報が虚偽であり又は欠けていることを知らず、かつ、相当な注意を用いたにもかかわらず知ることができなかったことを証明したときは、上記賠償責任を負いません。
- 3 TOKYO PRO Marketにおける取引所規則の枠組みは、基本的な部分において日本の一般的な取引所金融商品市場に適用される取引所規則の枠組みと異なっています。すなわち、TOKYO PRO Marketにおいては、J-Adviserが重要な役割を担います。TOKYO PRO Marketの上場会社は、特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例(以下「特例」という。)に従って、各上場会社のために行動するJ-Adviserを選任する必要があります。J-Adviserの役割には、上場適格性要件に関する助言及び指導、並びに上場申請手続のマネジメントが含まれます。これらの点について、投資者は、東京証券取引所のホームページ等に掲げられるTOKYO PRO Marketに係る諸規則に留意する必要があります。
- 4 東京証券取引所は、発行者情報の内容(発行者情報に虚偽の情報があるか否か、又は公表すべき事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けているか否かという点を含みますが、これらに限られません。)について、何らの表明又は保証等をしておらず、前記賠償責任その他の一切の責任を負いません。

第一部 【企業情報】

第 1 【本国における法制等の概要】

該当事項はありません。

第 2 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期中	第22期中	第23期中	第21期	第22期
会計期間	自 2023年 12月 1 日 至 2024年 5 月31日	自 2024年 12月 1 日 至 2025年 5 月31日	自 2025年 12月 1 日 至 2026年 5 月31日	自 2023年 12月 1 日 至 2024年 11月30日	自 2024年 12月 1 日 至 2025年 11月30日
売上高 (千円)	980,245	1,263,639	1,200,098	2,134,162	2,549,844
経常利益 (千円)	83,693	139,566	116,812	184,122	235,278
中間（当期）純利益 (千円)	55,642	91,665	81,014	128,539	159,580
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—	—	—
資本金 (千円)	82,000	82,000	88,000	82,000	88,000
発行済株式総数 (株)	2,000,000	2,000,000	2,020,000	2,000,000	2,020,000
純資産額 (千円)	352,453	491,311	620,039	425,351	571,100
総資産額 (千円)	1,197,464	1,412,166	1,526,582	1,217,535	1,477,546
1株当たり純資産額 (円)	176.23	245.66	306.95	212.68	282.72
1株当たり配当額 (円)	—	—	—	12.85	15.79
1株当たり中間（当期） 純利益金額 (円)	27.82	45.83	40.11	64.27	79.53
潜在株式調整後 1株当たり中間（当期） 純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	29.4	34.8	40.6	34.9	38.7
自己資本利益率 (%)	16.5	20.0	13.6	34.4	32.0
株価収益率 (倍)	—	13.1	—	9.3	—
配当性向 (%)	—	—	—	20.0	19.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	28,244	4,114	28,140	86,692	89,658
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△2,859	△4,394	△26,075	△3,411	△13,533
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△7,988	17,790	△17,965	△78,356	31,536
現金及び現金同等物の 中間期末(期末) 残高 (千円)	410,377	415,414	489,664	397,904	505,565
従業員数 〔外、平均臨時雇用人員〕 (名)	25 〔—〕	27 〔—〕	30 〔—〕	26 〔—〕	30 〔—〕

（注） 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移について

は記載しておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
3. 潜在株式調整後 1 株当たり中間（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。
5. 特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第128条第 3 項の規定に基づき、第21期及び第22期の監査を受けております。さらに、前中間会計期間（自2024年12月 1 日至2025年 5 月31日）及び当中間会計期間（自2025年12月 1 日至2026年 5 月31日）の中間財務諸表については、清陽監査法人の期中レビューを受けております。
6. 2024年5月18日付で普通株式 1 株につき500株の割合で株式分割を行いました。第21期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり純資産額及び 1 株当たり中間（当期）純利益金額を算定しております。
7. 株価収益率については、第21期（中間）及び第22期並びに第23期（中間）において期中での売買実績はなく株価を把握できないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当社は、非連結子会社1社を有しておりますが、重要性が乏しいため記載を省略しております。

4 【従業員の状況】

(1) 発行者の状況

2026年5月31日現在

従業員数(名)	30 [一]
---------	--------

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、派遣社員を除く。)は、年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。

2. 当社はメディカル給食事業単一セグメントのため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

第3 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、景気は緩やかな回復傾向に向かっている一方で、主要国での通商政策影響や中東情勢の影響もあり、また国内でのエネルギーコストの上昇、物流コスト高や物価高など、先行き不透明で厳しい状況が続いております。

また、メディカル給食業界においては、施設や病院等での人手不足と高齢化の流れがさらに深刻化する中、それを補う加工食品や完全調理済み食品のニーズはますます高まっております。

このような環境下、当社は、当中間会計期間において、新規顧客の獲得や、全国の展示会への積極的な出展等の営業努力、インドネシア産冷凍蒸葉物野菜（無加熱摂取冷凍食品）の輸入拡大等の施策を進めてまいりましたが、一方で、販売先の施設や病院において、物価高からの仕入価格見直しによる他社低価格品へのシフトもあり、当中間会計期間での売上への影響が出ております。

以上の結果、当中間会計期間の売上高は1,200,098千円（前年同期比5.0%減少）、営業利益は118,371千円（同16.0%減少）、経常利益は116,812千円（同16.3%減少）、中間純利益は81,014千円（同11.6%減少）となりました。

なお、当社はメディカル給食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は行っておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）の残高は489,664千円（前期末比15,901千円減）となりました。各キャッシュ・フローの状況と主な要因は以下のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は28,140千円となりました。これは、主な増加要因としては税引前中間純利益116,812千円、仕入債務の増加額33,136千円があった一方、棚卸資産の増加額63,890千円、法人税等の支払額64,198千円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は26,075千円となりました。これは主にソフトウェア（販売管理システム）リプレースによる無形固定資産の取得による支出16,075千円、関係会社出資金の払込による支出10,000千円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は17,965千円となりました。主な増加要因として短期借入金の純増減額35,000千円、長期借入れによる収入60,000千円があった一方、長期借入金の返済による支出81,070千円、配当金の支払額31,895千円があったことによるものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社は外国の提携会社へ当社ブランド製品の生産を委託し、国内販売を営む事業ですので、生産実績は記載しておりません。

(2) 受注実績

当中間会計期間における受注実績を示すと、次のとおりであります。尚、当社はメディカル給食事業単一セグメントのため、セグメント記載をしておりません。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
メディカル給食事業	1,197,148	94.7%	22,883	104.2%
合計	1,197,148	94.7%	22,883	104.2%

(注) 金額は、販売価格によっております。

(3) 販売実績

当中間会計期間における販売実績を示すと、次のとおりであります。尚、当社はメディカル給食事業単一セグメントのため、セグメント記載をしておりません。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
メディカル給食事業	1,200,098	95.0%
合計	1,200,098	95.0%

(注) 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、その割合が10%以上に該当する相手先がないため記載を省略しております。

3 【対処すべき課題】

前事業年度の発行者情報公表後、本中間発行者情報公表日までに重要な変更事項はありません。

4 【事業等のリスク】

当中間会計期間において、本中間発行者情報に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の発行者情報に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありませんが、当社株式の株式会社東京証券取引所が運営を行っております証券市場TOKYO PRO Marketの上場維持の前提となる契約に関し、以下に記載致します。

J-Adviserとの契約の解除に関するリスクについて

当社は、株式会社東京証券取引所が運営を行っております証券市場TOKYO PRO Marketに上場しています。

当社では本発行者情報公表日現在において、株式会社日本M&Aセンターとの間で、担当J-Adviser契約(以下、「当該契約」とします。)を締結しております。当該契約は、TOKYO PRO Marketにおける当社株式の新規上場及び上場維持の前提となる契約であり、当該契約を解除し、かつ、他の担当J-Adviserを確保できない場合、当社株式はTOKYO PRO Marketから上場廃止となります。当該契約における契約解除に関する条項及び契約解除に係る事前催告に関する事項は以下のとおりです。

なお、本発行者情報の公表日現在において、当該契約の解除条項に該当する事象は生じておりません。

<担当J-Adviserとの契約の解除に関する条項>

特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第102条の定めにより、TOKYO PRO Market上場企業は、東京証券取引所より認定を受けたいずれかの担当J-Adviserと、株式上場の適格性審査及び株式上場後の上場適格性を維持するための指導、助言、審査等の各種業務を委託する契約(以下、「J-Adviser契約」とします。)を締結する義務があります。本発行者情報公表日時点において、当社がJ-Adviser契約を締結しているのは株式会社

日本M&Aセンター（以下、「同社」とします。）であり、同社とのJ-Adviser契約において当社は、下記の義務の履行が求められております。下記の義務の履行を怠り、又は契約に違反した場合、相手方は、相当の期間（特段の事情のない限り1ヶ月）を定めてその義務の履行又は違反の是正を書面で催告し、その催告期間内にその義務の履行又は違反の是正がなされなかったときは、J-Adviser契約を解除することができる旨の定めがあります。また、上記にかかわらず、当社及び同社は、両当事者による書面による合意又は相手方に対する1ヶ月以上の書面による通知を行うことにより、いつでもJ-Adviser契約を解除することができる旨の定めがあります。当社が同社より上記の解除にかかる催告期間中において、下記の義務の履行又は違反の是正が果たせない場合、又は同社に代わる担当J-Adviserを確保できない場合は、当社普通株式のTOKYO PRO Market上場廃止に繋がる可能性があります。

< J-Adviser契約上の義務 >

- ・ 特例に定める上場会社の義務を履行するとともに、同社がJ-Adviserの義務を履行するために必要な協力を行うこと
- ・ 取締役会関係資料、株主総会関係資料、経営管理に関する各種資料、その他同社が必要とする資料等を遅滞なく提出すること
- ・ 必要に応じて特例及び特例施行規則の内容及びその解釈について、同社から指導及び助言を受け、当社はその指導及び助言に従って行動すること

また、当社において下記の事象が発生した場合には、同社からの催告なしでJ-Adviser契約を解除することができるものと定められております。

① 債務超過

当社がその事業年度の末日に債務超過の状態である場合において、1年以内(審査対象事業年度の末日の翌日から起算して1年を経過する日(当該1年を経過する日が当社の事業年度の末日に当たらないときは、当該1年を経過する日の後最初に到来する事業年度の末日)までの期間をいう。以下、本号において同じ。また「2年以内」も同様。)に債務超過の状態を解消できなかったとき。ただし、当社が法律の規定に基づく再生手続若しくは更生手続、産業競争力強化法（以下、「産競法」という。）に規定する特定認証紛争解決手続に基づく事業再生(当該手続が実施された場合における産競法に規定する特例の適用を受ける特定調停手続による場合も含む。)又は私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」（以下、「私的整理に関するガイドライン」という。）に基づく整理を行うことにより、当該1年を経過した日から起算して1年以内に債務超過の状態を解消することを計画している場合(同社が適当と認める場合に限る。)には、2年以内に債務超過の状態を解消できなかったとき。

なお、同社が適当と認める場合に適合するかどうかの審査は、当社が審査対象事業年度に係る決算(上場会社が連結財務諸表を作成すべき会社である場合には連結会計年度、連結財務諸表を作成すべき会社でない場合には事業年度に係る決算とする。)の内容を開示するまでの間において、再建計画(本号但し書に定める1年以内に債務超過の状態を解消するための経営計画を含む。)を公表している場合を対象とし、当社が提出する当該再建計画並びに次の(a)及び(b)に定める書面に基づき行うものとする。

(a) 次のイからハまでに掲げる場合の区分に従い、当該イからハまでに定める書面

- イ 法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を行う場合 当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得ているものであることを証する書面
- ロ 産競法に規定する特定認証紛争解決手続に基づく事業再生(当該手続が実施された場合における産競法に規定する特例の適用を受ける特定調停手続による場合も含む。)を行う場合 当該再建計画が、当該手続にしたがって成立したものであることを証する書面
- ハ 私的整理に関するガイドラインに基づく整理を行う場合 当該再建計画が、当該ガイドラインにしたがって成立したものであることについて債権者が記載した書面

(b) 本号但し書に規定する1年以内に債務超過の状態を解消するための経営計画の前提となった重要な事項等が、公認会計士等により検討されたものであることについて当該公認会計士等が記載した書面

② 銀行取引の停止

当社が発行した手形等が不渡りとなり銀行取引が停止された場合又は停止されることが確実となった場合。

③ 破産手続、再生手続又は更生手続

当社が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続若しくは更生手続を必要とするに至った場合(当社が、法律に規定する破産手続、再生手続又は更生手続の原因があることにより、破産手続、再生手続又は更生手続を必要と判断した場合)又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次の a から c までの掲げる場合その他当社が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合に準ずる状態になったと同社が認めた場合をいうものとし、当該 a から c までの掲げる場合には当該 a から c までの定める日に本号前段に該当するものとして取り扱う。

- a 当社が債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあるときなどで再建を目的としない法律に基づかない整理を行う場合 当社から当該整理を行うことについての書面による報告を受けた日
 - b 当社が、債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあることなどにより事業活動の継続について困難である旨又は断念する旨を取締役会等において決議又は決定した場合であって、事業の全部若しくは大部分の譲渡又は解散について株主総会又は普通出資者総会に付議することを取締役会の決議を行った場合 当社から当該事業の譲渡又は解散に関する取締役会の決議についての書面による報告を受けた日(事業の大部分の譲渡の場合には、当該事業の譲渡が事業の大部分の譲渡であると同社が認めた日)
 - c 当社が、財政状態の改善のために、債権者による債務の免除又は第三者による債務の引受若しくは弁済に関する合意を当該債権者又は第三者と行った場合(当該債務の免除の額又は債務の引受若しくは弁済の額が直前事業年度の末日における債務の総額の100分の10に相当する額以上である場合に限り。) 当社から当該合意を行ったことについての書面による報告を受けた日
- ④ 前号に該当することとなった場合においても、当社が次の a から c までの該当する再建計画の開示を行った場合には、原則として本契約の解除は行わないものとする。
- a 次の(a)又は(b)に定める場合に従い、当該(a)又は(b)に定める事項に該当すること。
 - (a) 当社が法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合 当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得られる見込みがあるものであること。
 - (b) 当社が前号 c に規定する合意を行った場合 当該再建計画が、前号 c に規定する債権者又は第三者の合意を得ているものであること。
 - b 当該再建計画に次の(a)及び(b)に掲げる事項が記載されていること。
 - (a) TOKYO PRO Marketに上場する有価証券の全部を消却するものでないこと。
 - (b) 前 a の(a)に規定する見込みがある旨及びその理由又は同(b)に規定する合意がなされていること及びそれを証する内容
 - c 当該再建計画に上場廃止の原因となる事項が記載されているなど公益又は投資者保護の観点から適当でないと認められるものでないこと。
- ⑤ 事業活動の停止
- 当社が事業活動を停止した場合(当社及びその連結子会社の事業活動が停止されたと同社が認めた場合)又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次の a から c までの掲げる場合その他当社が事業活動を停止した場合に準ずる状態になった場合と同社が認めた場合をいうものとし、当該 a から c までの掲げる場合には当該 a から c までの掲げる日に同号に該当するものとして取り扱う。
- a 当社が、合併により解散する場合のうち、合併に際して当社の株主に対してその株券等に代わる財産の全部又は一部として次の(a)又は(b)に該当する株券等を交付する場合は、原則として、合併がその効力を生ずる日の3日前(休業日を除外する。)の日
 - (a) TOKYO PRO Marketの上場株券等
 - (b) 特例第132条の規定の適用を受け、速やかにTOKYO PRO Marketに上場される見込みのある株券等
 - b 当社が、前 a に規定する合併以外の合併により解散する場合は、当社から当該合併に関する株主総会(普通出資者総会を含む。)の決議についての書面による報告を受けた日(当該合併について株主総会の決議による承認を要しない場合には、取締役会の決議(委員会設置会社にあつては、執行役の決定を含む。))についての書面による報告を受けた日)
 - c 当社が、前 a 及び前 b に規定する事由以外の事由により解散する場合(本条第3号 b の規定の適用を受ける場合を除く。)は、当社から当該解散の原因となる事由が発生した旨の書面による報告を受けた日
- ⑥ 不適当な合併等
- 当社が非上場会社の吸収合併又はこれに類するもの(i 非上場会社を完全子会社とする株式交換、i の2 非上

場会社を子会社とする株式交付、ii 会社分割による非上場会社からの事業の承継、iii 非上場会社からの事業の譲受け、iv 会社分割による他の者への事業の承継、v 他の者への事業の譲渡、vi 非上場会社との業務上の提携、vii 第三者割当による株式若しくは優先出資の割当て、viii その他非上場会社の吸収合併又はiからviiまでと同等の効果をもたらすと認められる行為)で定める行為(以下本号において「吸収合併等」という。)を行った場合に、当社が実質的な存続会社でないと同社が認めた場合

⑦ 支配株主との取引の健全性の毀損

第三者割当により当社の支配株主(当社の親会社又は当社の議決権の過半数を直接若しくは間接に保有する者)が異動した場合(当該割当により交付された募集株式等の転換又は行使により支配株主が異動する見込みがある場合を含む)において、支配株主との取引に関する健全性が著しく毀損されていると同社が認めるとき

⑧ 発行者情報等の提出遅延

当社が提出の義務を有する特定証券情報、発行者情報又は有価証券報告書等につき、特例及び法令に定める期間内に提出しなかった場合で、同社がその遅延理由が適切でないと判断した場合

⑨ 虚偽記載又は不適正意見等

次のa又はbに該当する場合

- a 当社が開示書類等に虚偽記載を行い、かつ、その影響が重大であると同社が認める場合
- b 当社の財務諸表等に添付される監査報告書等において、公認会計士等によって、監査報告書については「不適正意見」又は「意見の表明をしない」旨(天災地変等、上場会社の責めに帰すべからざる事由によるものである場合を除く。)が記載され、かつ、その影響が重大であると同社が認める場合

⑩ 法令違反及び上場契約違反等

当社が重大な法令違反又は特例に関する重大な違反を行った場合

⑪ 株式事務代行機関への委託

当社が株式事務を特例で定める株式事務代行機関に委託しないこととなった場合又は委託しないこととなることとが確実となった場合

⑫ 株式の譲渡制限

当社がTOKYO PRO Marketに上場する株式の譲渡につき制限を行うこととした場合

⑬ 完全子会社化

当社が株式交換又は株式移転により他の会社の完全子会社となる場合

⑭ 指定振替機関における取扱い

当社が発行する株券が指定振替機関の振替業における取扱いの対象とならないこととなった場合

⑮ 株主の権利の不当な制限

当社が次のaからgまでのいずれかに掲げる行為を行っている場合において、株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると同社が認めた場合その他株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると同社が認めた場合をいう。

- a 買収者以外の株主であることを行使又は割当ての条件とする新株予約権を株主割当て等の形で発行する買収防衛策(以下「ライツプラン」という。)のうち、行使価額が株式の時価より著しく低い新株予約権を導入時点の株主等に対し割り当てておくものの導入(実質的に買収防衛策の発動の時点の株主に割り当てるために、導入時点において暫定的に特定の者に割り当てておく場合を除く。)
- b ライツプランのうち、株主総会で取締役の過半数の交代が決議された場合においても、なお廃止又は不発動とすることができないものの導入
- c 拒否権付種類株式のうち、取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされたものの発行に係る決議又は決定(持株会社である当社の主要な事業を行っている子会社が拒否権付種類株式又は取締役選任権付種類株式を当社以外の者を割当先として発行する場合において、当該種類株式の発行が当社に対する買収の実現を困難にする方策であると同社が認めるときは、当社が重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされた拒否権付種類株式を発行するものとして取り扱う。)
- d TOKYO PRO Marketに上場している株券について、株主総会において議決権を行使することができる事項のうち取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について制限のある種類の株式への変更に係る決議又は決定。

- e TOKYO PRO Marketに上場している株券より議決権の多い株式(取締役の選解任その他の重要な事項について株主総会において一個の議決権を行使することができる数の株式に係る剰余金の配当請求権その他の経済的利益を受ける権利の価額等がTOKYO PRO Marketに上場している株券より低い株式をいう。)の発行に係る決議又は決定。
 - f 議決権の比率が300%を超える第三者割当に係る決議又は決定。
 - g 株主総会における議決権を失う株主が生じることとなる株式併合その他同等の効果をもたらす行為に係る決議又は決定。
- ⑯ 全部取得
当社がTOKYO PRO Marketに上場している株券に係る株式の全部を取得する場合。
- ⑰ 反社会的勢力の関与
当社が反社会的勢力の関与を受けている事実が判明した場合において、その実態がTOKYO PRO Marketの市場に対する株主及び投資者の信頼を著しく毀損したと当社が認めるとき。
- ⑱ その他
前各号のほか、公益又は投資者保護のため、同社若しくは東証が上場廃止を適当と認めた場合。

＜J-Adviser契約解除に係る事前催告に関する事項＞

- ① 当社又は同社が、本契約に基づく義務の履行を怠り、又は、その他本契約違反を犯した場合、その相手方は、1ヵ月間の期間を定めてその違反の是正又は義務の履行を書面で催告し、その催告期間内にその違反の是正又は義務の履行がなされなかったときは本契約を解除することができる。
- ② 前項の定めに関わらず、当社及び同社は、合意により本契約期間中いつでも本契約を解除することができる。また、当社又は同社から相手方に対し、1ヵ月前に書面で通知することにより本契約を解除することができる。
- ③ 本契約を解除する場合、特段の事情のない限り、同社は予め本契約を解除する旨を株式会社東京証券取引所に通知する。

5 【重要な契約等】

(商品の製造委託契約)

国名	契約書名	会社名	契約内容	契約有効期間
インド	製造委託基本契約書	Furozun Fruits & Vegetables	製品製造委託取引	自 2026年3月1日 至 2036年2月28日 (以後1年毎の自動更新)

6 【研究開発活動】

前事業年度の発行者情報公表後、本中間発行者情報公表までに重要な変更事項はありません。

第4 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当中間会計期間におきましては、ソフトウェア（販売管理システム）リプレイス等、16,075千円の投資を実施いたしました。

2 【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、次のとおりであります。

2026年5月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	その他	合計	
本社 (東京都中央区)	メディカル給食	本社設備	4,682	3,318	23,683	15	31,699	30

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第5 【発行者の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

記名・無記名の別、額面・無額面の別及び種類	発行可能株式総数(株)	未発行株式数(株)	中間会計期間末現在発行数(株) (2026年5月31日)	公表日現在発行数(株) (2026年8月28日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	8,000,000	5,980,000	2,020,000	2,020,000	東京証券取引所 (TOKYO PRO Market)	単元株式数100株
計	8,000,000	5,980,000	2,020,000	2,020,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【MSCB等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2024年5月18日(注)1	1,996,000	2,000,000	—	82,000	—	—
2025年8月18日(注)2	20,000	2,020,000	6,000	88,000	6,000	6,000

(注) 1. 株式分割(1:500)によるものであります。

2. 有償第三者割当増資

発行価格 600円

資本組入額 300円

割当先 当社取締役7名、当社監査役1名、当社従業員19名

(6) 【大株主の状況】

2026年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ソウハンホールディングス	東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9	1,300,000	64.36%
山崎裕康	東京都港区	489,900	24.25%
山崎光紀	東京都板橋区	105,100	5.20%
山崎みちる	東京都港区	26,000	1.29%
山崎純奈	東京都板橋区	25,600	1.27%
山崎純平	東京都町田市	25,000	1.24%
荒川 悟	東京都渋谷区	13,500	0.67%
渡辺穰治	大分県日田市	12,500	0.62%
大黒天物産株式会社	岡山県倉敷市西中新田297番地1	5,000	0.25%
株式会社ウェディングボックス ホールディングス	東京都港区芝1丁目4番3号	5,000	0.25%
計		2,007,600	99.39%

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2026年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,020,000	20,200	権利内容に何ら限定のない、 当社における標準となる株式 であり、単元株式数は100株で あります。
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	2,020,000	—	—
総株主の議決権	—	20,200	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【株価の推移】

月別	2025年12月	2026年1月	2026年2月	2026年3月	2026年4月	2026年5月
最高(円)	—	—	—	—	—	—
最低(円)	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所TOKYO PRO Marketにおける取引価格であります。

2. 2025年12月から2026年5月については売買実績がありません。

3 【役員の状況】

2026年2月26日付の発行者情報公表日後、当中間発行者情報公表日までにおいて、役員の異動はありません。

第6 【経理の状況】

1 中間財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。なお、当社の中間財務諸表は、第1種中間財務諸表であります。
- (2) 当社の中間財務諸表は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例の施行規則」第116条第3項で認められた会計基準のうち、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。

2 監査証明について

当社は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第128条第3項の規定に基づき、当中間会計期間（自2025年12月1日 至2026年5月31日）の中間財務諸表について、清陽監査法人により期中レビューを受けております。

3 中間連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）第95条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、中間連結財務諸表は作成しておりません。

【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年11月30日)	当中間会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	513,365	497,464
売掛金	392,424	366,723
商品	400,479	464,370
前渡金	119,983	119,249
前払費用	3,515	1,937
その他	3,823	7,043
貸倒引当金	△8,273	△8,116
流動資産合計	1,425,319	1,448,673
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,937	5,937
減価償却累計額	△1,030	△1,255
建物(純額)	4,907	4,682
車両運搬具	1,348	1,348
減価償却累計額	△1,348	△1,348
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	10,507	10,507
減価償却累計額	△6,484	△7,188
工具、器具及び備品(純額)	4,023	3,318
有形固定資産合計	8,930	8,001
無形固定資産		
商標権	45	15
ソフトウェア	4,662	23,683
ソフトウェア仮勘定	4,400	-
無形固定資産合計	9,107	23,698
投資その他の資産		
投資有価証券	2,724	2,446
出資金	70	70
関係会社出資金	-	10,000
長期前払費用	24	24
長期前渡金	4,843	4,843
繰延税金資産	23,310	25,764
その他	8,060	7,905
貸倒引当金	△4,843	△4,843
投資その他の資産合計	34,188	46,210
固定資産合計	52,226	77,909
資産合計	1,477,546	1,526,582

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年11月30日)	当中間会計期間 (2026年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,955	80,092
短期借入金	※ 210,000	※ 245,000
1年内返済予定の長期借入金	148,190	140,460
未払金	59,065	45,352
未払費用	36,197	26,791
未払法人税等	64,114	38,069
未払消費税等	15,926	6,030
賞与引当金	-	9,143
預り金	1,128	2,631
その他	-	5
流動負債合計	581,577	593,575
固定負債		
長期借入金	295,528	282,188
役員退職慰労引当金	29,340	30,780
固定負債合計	324,868	312,968
負債合計	906,445	906,543
純資産の部		
株主資本		
資本金	88,000	88,000
資本剰余金		
資本準備金	6,000	6,000
資本剰余金合計	6,000	6,000
利益剰余金		
利益準備金	20,500	20,500
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	456,732	505,850
利益剰余金合計	477,232	526,350
株主資本合計	571,232	620,350
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△131	△311
評価・換算差額等合計	△131	△311
純資産合計	571,100	620,039
負債純資産合計	1,477,546	1,526,582

② 【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)		当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)	
売上高	※1	1,263,639	※1	1,200,098
売上原価		745,880		685,749
売上総利益		517,758		514,348
販売費及び一般管理費	※2. ※3	376,894	※2. ※3	395,977
営業利益		140,864		118,371
営業外収益				
受取利息		173		511
受取配当金		-		35
助成金収入		300		-
受取保険金		-		410
受取手数料		686		820
為替差益		344		63
営業外収益合計		1,504		1,841
営業外費用				
支払利息		2,801		3,400
営業外費用合計		2,801		3,400
経常利益		139,566		116,812
特別損失				
固定資産除却損		0		-
特別損失合計		0		-
税引前中間純利益		139,566		116,812
法人税、住民税及び事業税		55,280		38,152
法人税等調整額		△7,380		△2,355
法人税等合計		47,900		35,797
中間純利益		91,665		81,014

③ 【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年12月 1 日 至 2025年 5 月31 日)	当中間会計期間 (自 2025年12月 1 日 至 2026年 5 月31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	139,566	116,812
減価償却費	1,802	2,414
賞与引当金の増減額(△は減少)	11,733	9,143
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,856	△157
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	-	1,440
受取利息及び受取配当金	△173	△546
支払利息	2,801	3,400
売上債権の増減額(△は増加)	△20,299	25,700
棚卸資産の増減額(△は増加)	△131,598	△63,890
前渡金の増減額(△は増加)	△12,761	734
仕入債務の増減額(△は減少)	49,460	33,136
未払消費税等の増減額(△は減少)	△5,983	△9,895
未払金の増減額(△は減少)	3,393	△13,713
未払費用の増減額(△は減少)	△3,914	△9,406
その他	1,604	20
小計	31,775	95,192
利息及び配当金の受取額	173	546
利息の支払額	△2,801	△3,400
法人税等の支払額	△25,032	△64,198
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,114	28,140
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△1,466	△16,075
関係会社出資金の払込による支出	-	△10,000
投資有価証券の取得による支出	△2,928	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,394	△26,075
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額	-	35,000
長期借入れによる収入	120,000	60,000
長期借入金の返済による支出	△76,510	△81,070
配当金の支払額	△25,700	△31,895
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,790	△17,965
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	17,510	△15,901
現金及び現金同等物の期首残高	397,904	505,565
現金及び現金同等物の中間期末残高	415,414	489,664

【注記事項】

(中間貸借対照表関係)

※ 当座貸越契約

当社は、資本効率の向上を図りつつ、必要な時に運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約を締結しております。当中間会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年12月1日 至 2025年11月30日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
当座貸越極度額の総額	400,000千円	400,000千円
借入実行残高	210,000	245,000
差引額	190,000	155,000

(中間損益計算書関係)

※ 1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、財務諸表「注記事項 (収益認識関係) 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

※ 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
役員報酬	25,650千円	26,400千円
給料手当	46,867	55,372
荷造運賃	110,661	107,236
倉庫保管費	89,630	102,306
賞与引当金繰入額	11,733	9,143
役員退職慰労引当金繰入額	-	1,440
貸倒引当金繰入額	△3,856	△157
おおよその割合		
販売費	65.6%	67.6%
一般管理費	34.4%	32.4%

※ 3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
研究開発費計上額	2,612千円	2,057千円

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
現金及び預金勘定	423,214千円	497,464千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△7,800千円	△7,800千円
現金及び現金同等物	415,414千円	489,664千円

(株主資本等関係)

前中間会計期間(自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年2月27日 定時株主総会	普通株式	25,700	12.85	2024年11月30日	2025年2月28日	利益剰余金

- (2) 基準日が中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

当中間会計期間(自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2026年2月26日 定時株主総会	普通株式	31,895	15.79	2025年11月30日	2026年2月27日	利益剰余金

- (2) 基準日が中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、メディカル給食事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間会計期間（自 2024年12月1日 至 2025年5月31日）

(単位：千円)

	メディカル給食事業
一時点で移転される財又はサービス	
メディカル食材事業	1,006,535
原料食材事業	167,184
冷凍食品市販事業	9,475
冷凍弁当事業	80,444
顧客との契約から生じる収益	1,263,639
その他の収益	—
外部顧客への売上高	1,263,639

当中間会計期間（自 2025年12月1日 至 2026年5月31日）

(単位：千円)

	メディカル給食事業
一時点で移転される財又はサービス	
メディカル食材事業	1,021,992
原料食材事業	135,953
冷凍食品市販事業	10,283
冷凍弁当事業	31,868
顧客との契約から生じる収益	1,200,098
その他の収益	—
外部顧客への売上高	1,200,098

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
1株当たり中間純利益(円)	45.83	40.11
(算定上の基礎)		
中間純利益(千円)	91,665	81,014
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る中間純利益(千円)	91,665	81,014
普通株式の期中平均株式数(株)	2,000,000	2,020,000

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

(運転資金の借入について)

当社は2026年7月14日に開催した取締役会において、資金の借入を行うことを決議し、以下のとおり実行致しました。

- (1) 借入先：株式会社三井住友銀行
- (2) 借入金額：150,000千円
- (3) 借入金利：変動金利
- (4) 借入実行日：2026年7月31日
- (5) 返済期日：2031年7月31日
- (6) 担保状況：無担保
- (7) 資金使途：運転資金
- (8) 財務制限条項：なし

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第 7 【外国為替相場の推移】

該当事項はありません。

第二部 【特別情報】

第 1 【外部専門家の同意】

該当事項はありません。

独立監査人の中間財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026 年 8 月 25 日

株式会社勝美ジャパン

取締役会 御中

清陽監査法人

東京都港区

指 定 社 員

業務執行社員

指 定 社 員

業務執行社員

公認会計士

松 瀧 敏 朗

公認会計士

中 山 直 人

監査人の結論

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の特定上場有価証券に関する有価証券上場規定の特例第 128 条第 3 項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社勝美ジャパンの 2025 年 12 月 1 日から 2026 年 11 月 30 日までの第 23 期事業年度の中間会計期間（2025 年 12 月 1 日から 2026 年 5 月 31 日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社勝美ジャパンの 2026 年 5 月 31 日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な後発事象に記載されている通り、会社は 2026 年 7 月 14 日開催の取締役会における決議に基づき、2026 年 7 月 31 日に借入を実行している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを

評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上